

令和8年度第1回甲賀市スポーツ推進審議会 概要報告

1. 開催日時 令和8年8月21日（金）午後7時30分から午後9時30分まで
2. 開催場所 甲賀市役所 4階 教育委員会室
3. 出席者 委員 小澤委員、山崎委員、福井委員、大原委員、倉谷委員、村上委員、松本委員、西田委員、伴委員
以上9名
事務局 立岡教育長、教育委員会事務局 理事 福井、
文化スポーツ課 課長 石山、課長補佐 竹瀝、係長 藤谷、
社会体育指導員 中村
4. 傍聴者 なし
5. 会議次第 *報告事項
・甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について
*意見交換
・甲賀市スポーツ推進計画について
・部活動の地域展開について
6. 配布資料 ・甲賀市スポーツ推進計画
・スポーツ振興のための重点施策について
・資料1 甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について
・資料2 甲賀市スポーツ推進計画の次期計画策定について
・資料3 中学校部活動の地域展開に向けた取り組みを進めています

7. 議事の概要

○報告事項 甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について

委員 資料1の3ページにスポーツ関係財団や法人との連携について記載がある。
パラスポーツについては、甲賀市パラスポーツ協会が活動しているが記載がない。
連携していないのか。

事務局 直接的な支援をしていないため資料には記載していない。
総会等には参加させていただいており、色々な活動をされていることは承知している。

委員 将来的に活動記録を残すために整理するべきだと思う。関連して質問する。
スポーツ協会がスポーツ事業団になったが、市民からすると浸透していない部分がある。
文言の整理は大事なことであり、村上委員が言われたように、それぞれの協力団体について、
計画の中でも文書として残す必要がある。

これは試案の段階だと思うが、この団体がこうなったといった注釈を入れてはどうか。

最終的に市民が閲覧できるとすれば、丁寧に記載すべき。

特に、関係団体の名称は、皆さんがんばっておられるので、次の段階なのかもしれないが、市の部署名も含め、整理してほしい。

事務局 整理をさせていただきたい。

○意見交換 甲賀市スポーツ推進計画について

会長 令和11年度以降の計画策定に向けた意見交換となっているので、ご意見をお願いしたい。

委員 次の10年間となると、今から12年先までの話になる。

そうすると、土山、甲賀、信楽は単級になっていく時代が来る。

各地域の中で指導者をどう育成していくのか。

例えば、公的な機関でそういった人材をどれくらい雇うのかといったことも含め、市として検討してほしい。企業任せでは無理だし、任せるならそういう人材を雇ってくれる企業にはどういうメリットがあるとか、そうしたところまで踏み込まないと企業は動かないと思う。僕らはボランティアでやってきたが、そういう時代ではない。

総合型のクラブマネージャーをやっているけど今の給料は低すぎるレベルにある。

子どもが大学に行くレベルでないと無理なので、市全体の予算規模も踏まえて考えてほしい。財団の統合で給与ベースを合わせたのなら、そこに人材を確保するようなことも必要である。中学校部活動ではコーディネーターに入ってもらっているが、今の給与では難しいだろう。その辺りの具体的な数字も含め、あと2年で計画を仕上げていかないといけない。

10年先の給料はこれくらいで、世の中とこのように整合していくと計画を具体的な数字で見せていかないと絵に描いた餅になってしまう。

あとは地域のボランティアでという計画では絶対に人は育たない。

今の30代、40代の考え方は計画の中にもしっかりと入れておいてほしい。

会長 今から10年、20年先の話になる。冒頭の挨拶でも申しあげたが、難しい時代だと思う。

例年通りとか微調整とかで済んでいたが、ボランティアが通用しない、少子化などの問題があり、考え方を大きく変えなければいけない。デリケートに色々と配慮しなければならない。先を読んでいかないとこれまでの考え方では、3年、5年もたない気がする。

この辺りの考え方について事務局で何かあれば。

事務局 部活動の地域展開でも、地域の指導員をどのように育成するのか検討が必要である。

市単独では難しい部分もあり、国の方針などを踏まえ、方策を検討していきたい。

現状では見えない部分も多い状況だが、ご意見を踏まえ、計画の準備を進めたい。

委員 なぜ危機感を持っているかというと、県の中学校部活動の審議会の中で、進捗状況を考えたときに、今、県は土日の展開を言っている。

そんな悠長なことを言っているのは甲賀市では、全然合わない。

平日を含めた1週間をどうするか、子どもがいなくなること、また、地域のリトルリーグ等事業団とかかわりをもってやっているところに行く子とそうでないところに行く子では、全然変わってくる。

昨日、高校野球の大会会場で和歌山の方とお話ししたが、4校でようやく1チームできるとおっしゃっていた。そういう時代になっている。相当考える必要がある。

ところが、甲賀市の場合は残念ながら特に旧3町については人口減が著しい。

計画では、その辺りも踏まえる必要がある。

競技を絞れば寄ってくるが、それ以外の競技や生涯スポーツの中で指導者を育成するのか。

今、スポーツ推進委員が一生懸命活動しているが、僕らの時は100人いた。

今は30何人しかいない。10年先には30人も確保してくれるのか。

スポ少も含め厳しい状況であるとひしひしと感じている。

総合型でも一部変わられたところもあるが、20年間よく似たメンバーが必死にやっている。

人材が見つからない状況は、市が本腰を入れて人材育成のシステムを作らないと解決しないので、国や県がどうということではなく、市が独自にどうやっていくのかを考えてほしい。

例えば10年先の人口はどれくらいと見込んでいるのか。

委員 今のご意見について論点整理をしたいが、せっかく委員に出席いただいているので、それぞれの立場から情報やご意見を聞かせていただくほうがいいと思う。

会長 趣旨はご理解いただいていると思うので、それぞれのお立場でご意見をお願いしたい。

委員 スポーツ少年団では広報紙を作って、団の紹介をしている。

少子化だが、スポーツしたい子はたくさんいるので、前向きな気持ちで団運営をしている。

家庭環境がここ何年かで変わり、共働きだと休みの時間を貴重と思われるご家庭もある。

そうしたご家庭では、スポ少に送りだしていただくのも厳しい。

そうした中、親子運動遊びACP(アクティブチャイルドプログラム)は、文科省が推進しており、私も普及委員をしている。

年2回、甲賀市独自で実施している。

大体2時間くらい使って、前半はACPに親子で参加いただき、後半は体験会をしている。

広報紙で連絡先を紹介していると、友達つながりなどで半年くらいの間で入ってくれる。

保護者には、10年、20年先の甲賀市のことを考えると自分たちのビジョンが広がるので、スポーツをするのは大事と訴えている。

そこから芋づる式に兄弟とか近所の子、同級生などが入ってきている。

苦しい中でもなんとか団員を増やしている。

学校では外部指導者を入れていると思うが、指導者の資質を懸念する先生がいる。

せっかく来ていただくのなら、選抜して入れていただきたいと思う。

部活終了後に体育館を借りて、早急に部活展開を始めていこうと言っている。

スポ少の指導者は必ず資格を持っているので、そういう面も生かして進められればと思う。

先生方の働き方改革と言うが、ボランティアをしている者は、仕事の合間に指導するというとても忙しい毎日を送っている。給与を出せるような組織にしてほしいと思う。

人材育成は大事。保護者の中でも手伝いを続けられる方、辞められる方がいる。
そういう方を人材育成できるよう、組織をつくっていただきたい。
資格更新や意見交換など長く続けられる方を県に倣い、市の人材バンクをつくってほしい。
来週は部活展開の会議が県であるので、市の情報を教えてほしい。

委員 健康推進員は、食生活部と広報部と運動部の3部でできている。
運動は、運動部が担っており、年に2回以上各5町でスポーツをするよう計画している。
健康推進員は筋力アップというより、健康長寿を伸ばすのが目的である。
特にウォーキングの計画が多い。
去年もスポーツ推進委員にも協力いただきながら、それぞれ5町でしてもらった。
幼児から高齢者まで市民を巻き込み楽しみながら心と健康を維持していくよう進めている。
運動部としてはこれを続けて行きたい。
ウォーキングが難しい人はいすでの体操など講師を招いて計画している。
健康推進員とは関係ないが、毎週プールでウォーキングしている。
信楽中学校のプールは5月から10月までの営業で、ウォーキングで体調がよくなっても、
10月で終わりになる。素晴らしい施設なので、1年間で続けてほしいという要望がある。
腰が痛い、足が痛いとなると医師からスイミングがいいと聞くと、午前中はしていないし、
週4日だけだし、うまく行けるタイミングがない。
やむなく民間のジムに行かれている方も半年の営業ではプールに移れないとおっしゃる。
水泳をしたいが、ずっと営業していないので行けないという声も聞く。
昔は中学校にも水泳部があり、部活動をしていたのを見ていた。
今は水泳に関わる子どもが少なくなっていると感じている。
寒い地域で維持費がかかるのは重々分かるが、Well-be とコラボしてプールを使うべきだ
と思っているので、年間を通じて利用できるように要望させていただく。

委員 健康医療政策課では、健康寿命を延ばそう事業と健康推進員の支援をしている。
鍛えるというより健康づくり、体力維持ということが市民に定着すればと思う。
健康推進員から話していただいたので、感想になるが、高校までは部活動を頑張る方が多い。
卒業されると燃え尽きるようにそこでやめてしまわれるのがすごくもったいないと思う。
プロになるのは稀だと思うが、大学生や社会人になっても、生涯スポーツという形で続けて
いけるような環境があればと思う。
そういう方が自然と指導者になるような流れがあつたらいいと思う。
そうしたことを計画の中で示せばいいと思う。

委員 保育園では体を動かす遊びを多く取り入れている。
子どもたちは、普段から、リレー、ドッジボール、リズム、体操、ダンス、鉄棒、縄跳び等
様々な遊びに意欲的に取り組んでいる。
幼児は、機能的な動きが身につきやすい。
運動能力を伸ばすだけでなく、自信、意欲、社会性も育つ。
体が動かすことが楽しいと感じ、将来的にも意欲的に活動できるよう年齢や発達に合わせて

環境を設定している。

委員 昨年は障スポがあり、甲賀市では2種目を実施いただいた。
市民には、障がい者スポーツの理解をいただけたと思っている。
特にボッチャでは、市の大会に多くの参加があり、共生社会への一歩と思っている。
また、6競技のうち2競技を実施していただいたことも非常に喜んでいる。
しかしながら、盛り上がった障がい者スポーツをどうしていくかというのは課題である。
去年は、大会のために選手をたくさん指名している。
その方は滋賀県での大会だから出場できたが、今年は青森で2名というように激減する。
残りの人はどうするのかということがある。
県の協会では予算を組んで独自でやるのは3回しかないが、各競技団体がある。
そこがサポートしながら、生涯スポーツとしてやっていただく形になる。
去年は障スポのために頑張れという盛り上がりだったが、それだけでは長続きしない。
目標にするものが必要だが、出場枠2くらいになってくると、諦めも出てくる。
そこで、新しい方にも入っていただくような活動をしている。
できるだけ楽しみ、生涯スポーツとして一緒になってやっていく形の取り組みをしている。
トップアスリートは自分でスポンサーを見つけながら、世界に出ていく。
そうした選手のサポートより、底辺の部分膨らませるような取り組みをしている。
ボランティアについても、単位目的の学生でも参加できるならOKとしている。
パラスポーツサポーターという形で協力いただけるよう、できるだけ幅広く募集している。
共生社会をレガシーとしてやっていかねばならない。
去年の障スポをできるだけ周知いただき、より仲良くやっていけるよう取り組んでいる。

委員 前は平成29年にアンケートを取られたが、また、取られる予定があるのか伺いたい。
計画は自己満足ではダメなので、10年たってどれだけの効果があったか比較すべき。
例えば、スポーツの頻度でいうと30%だったが、どれだけあがっているか。
また、障がい者スポーツの関心が障スポでどれだけ上がったのか。
施設の充実では充実していると思わない人が多かったがどうなったかなど。
どれだけ改善したのか。改善していないなら考えないといけない。
現在の評価をして、改善できていないところはしっかりと対応してほしい。
子どもの体力も上げたいと思う。
全国的に上がっていないと思うが、甲賀市では少子化でも、上がっているようになればいい。
スポーツ習慣についてもどうなったか調べてほしい。
ぜひアンケートをとってそれも見て次の施策を考えてほしい。
もう1つだけ。国スポ障スポが実施された。
レガシーというが、ボッチャがレガシーになるし、続いていけばいいと思う。
これ以外にもあればいいと思う。その辺りも考えて計画してほしい。

会長 10年前だと思うが、この組織ができるときに計画策定には意識調査が大事だということで、かなり苦勞していただき計画ができたと思う。

計画を作るうえでは意識調査が大事だと思うので、ぜひお願いしたい。

委員 皆さん方のご意見を聞いていると、それぞれの団体で悩みがあると思う。
レガシーについて、甲賀市としてはボッチャだけであるが、市長杯という形で実施している。
市民に対しては共生社会の実現のための事業という形になっている。
アンケートについては、1つの大きな教室で独自調査している部分がある。
一番問題なのは、「障がい者といっしょに運動することをどう思うか」という質問に対し、
実際いいという人は少ないということ。分からない人が多く、いやだという人は少ない。
私たちは共生社会の実現を目指しているが、市民では理解できない方が多い。
財源についても同じようなことで、人に動いてもらおうとついでくる。
市でも限られた財源になるのでどういう形で有効活用していくかということが重要になる。
ここにお集りの皆さんの連携でうまくいくと思う。
例えば、健康推進員のウォーキング事業についてはスポーツ推進委員が動いているし、
ボッチャについても動いている。
そういう形で連携していくことによって、人材が育っていく。
人材は、先のにもお話があったが免許をお持ちならいいかといふとなかなか難しく、
この人はダメというように私たちの立場でふるいにかけることはできない。
組織運営するときには、資質が重要であり、そこは行政でもっていただく必要がある。
そうでないと、いい仲間、人材が育たないので、システムを早く構築することでそれぞれの
種目に対していい指導者が生まれるのではないかと思う。
連携については、このように集まった時に初めて相談できると思う。
市では市民の方にこういう形で頑張っているとPRするために計画があると思うが、
もう少しフラットなところで議論していかないと人が育たないと思う。
民間ならサイクルが早く3年、5年で大きく変わるので、教育は違うかもしれないが、
大きく10年単位でするのは難しい時代になっているのではないか。
5年計画でもう一度見直す必要があると思う。
私たちは、市民や地域のために場の提供やスポーツ指導のアドバイスをしているが、
手をつなぐ仲間がいないと難しいというのが現状である。
そこは行政の力を借りつつ工夫が必要になってくると思う。

会長 スポーツ事業団の立場からいうと、競技団体が加盟団体であり、競技力向上が柱になる。
しかし、それは県や国のレベルで、市レベルでは、競技を通して市民が健康にということで、
目的は同じである。
最近、ウォーキングを専門的に、生理学的に、また技術的に指導するなど、事業団として
やるべき内容で健康寿命につなげたいという思いで活動している。
中学校、高校での部活で燃え尽きてという話があった。
そういう意識があるかもしれないが、各競技団体から聞くのは施設がないということである。
例えば、弓道では全国的にも有名な方がおられるが、施設がない。
市内の高校には施設があるが、社会人が仕事を終えて夜に活動するとなるとかみ合わない。
電車に乗っていても弓道の道具を持っている子が多い。

どうしても大津の方に行ってやらなければならない。

高校だけでこれだけ数があるので、ぜひ施設をつくってほしいと市にもお願いはしている。弓道の殿堂のようなものでなくプレハブ的なものであれば予算を抑えられるのではないか。これは一例であるが、受け皿として施設があり、うまく回せれば生涯スポーツにつながる。限られた財政の中だが、施設の充実をお願いしたい。施設がないと考えることもできない。

委員 施設のことで関連して。

甲賀市の施設には、冷房設備が少ない気がしている。地球温暖化で危険な暑さになっている。こうした中で、冷房は必須になってきている。

今は地震や大雨による被災地域があるが、避難する先に設備がないことも問題になっている。今の夏の暑さの中では運動できないので、整備しないと夏にはやめようという気持ちが先になってしまうと思う。

学校開放などでも整備されていれば一緒に楽しめると思うので、施設のことも考えてほしい。

会長 合併により事業団となった。

以前はスポーツ協会としてスポーツの森の指定管理をとっていた。

自主運営ということで、限られた職員で、草刈りを含め管理をしていた。

甲賀中央公園でも、限られた職員が事務、事業から草刈りまでしている。

今度、指定管理が更新されるが、もし、専任の職員を雇ってもらえれば、スポーツの森でも指定管理にも手を挙げられる。

人の2倍、3倍働いているのに、今の人員でスポーツの森の自主運営はできない。

自主運営できれば加盟団体にもお金を回せ、色々な活動につながっていく。

どこに金をかけるかと言えば、スポーツ協会をもっと充実してほしい。

儲けすぎることはできないが、十分運営できれば、部活動の地域展開でも力を発揮できる。

今は目の前のことで精いっぱい、ボランティアでやっているような感じである。

そんなことも頭に入れていただければと思う。

○意見交換 部活動の地域展開について

会長 市町村ごとに環境や状況が違うが、今の説明が甲賀市のスタイルということになる。

時間的な制約もあるが、ご意見をお願いしたい。

委員 予算などは分からないが、新しく地域展開するために地域クラブに移管した場合に、まったくボランティアというのは難しいと思う。

どれくらいの補助があるのかは心配している。

教員の中でも指導者を続けたいという方がいることは知っているが、学校が終わったら私たちと同じボランティアでやったらいいのではという話をしていた。

その時の思いと違うと感じたのは、新しい地域クラブを立ち上げるというところで、私たちの考えと先生方の考えとは違うと感じた。

17時以降は先生方で立ち上げられたクラブで活動される形になるのか。

私たちは、中学生も一般の方もいっしょにやっている。

その中で、中学生も大人も一緒にできればいいと思っているが、先生だけで中学生を相手にされるイメージになるのか。

事務局 予算については、国からも受益者負担でないと持続できないと言われている。

例えば、スポ少でも月額を集めておられると思うが、それが資本になる。

今は、教員には土日は部活動手当があるので、部活動が無くなればそれが浮いてくる。

また、部活動指導員の手当でも市から24人分出しているが、それも浮いてくる。

国も県も予算を出したいとは言っているが、そこは保証できない話なので、少しでも謝金を払いながら、完全ボランティアにはならないように進めていきたいと考えている。

まだ、試算はしていないので、どれだけの団体が中学生の受け皿になっていただけるのか、アンケートの結果を見ながら予算に反映できればと思っている。

もう1点については、説明の仕方が少しおかしかった。

教員は教員でというようには考えていない。

教員の中でも地域クラブに入っていっしょに指導員になるということは理想と考えている。できる限りそういう形で、どうしても難しい競技については兼職兼業の教員で対応したい。

委員 確認するが、方向が決まり、令和9年度からこの2種目を試験的にするというでいいか。

財源や人員の担保と資質の問題があつて、計画を教員が作っている時点で無理がある。

前の審議会でも発言したが、中学校の教員の代わり地域ですというように分けてほしい。

教員が地域クラブに入ると、地域が動きにくい。

心情的に地域に関わらないといけないと考える教員がいたら、働き方改革ができない。

分けてしまってから、兼業OKの教員だけが手伝えばいい。

全部で24くらいのクラブを網羅するならそれだけ人材も必要になる。

できる種目を生徒に提供して、選別してもらったらいいい。

人口減少を踏まえて、今あるものをすべて残そうとするとところに無理がある。

この資料だけではそこまで見ているのか見えてこない。

やらなければという思いが強すぎると思う。10月の審議会で整理したほうがいい。

委員 地域展開になる場合の保険について、受け皿となるクラブで入らないといけなくなると思う。

委員 保険は、今までは学校の負担であつたが、展開後は参加する生徒の受益者負担になる。

事務局 学校管理下の部活は健康保険センターが賄っている。

展開後は、安全保険に入ってもらう形になる。

委員 あの保険は1億しか出ないし、無制限にはできない。

3億とか5億とか請求されている事例があるので、その問題を解決してもらわないとどの団体も手を挙げない。

個人負担とか自己財源でと言われても無理。

5年計画で聞いているので、そのスパンで考えればいい。

クラブとしても来年はテニスについて復活させたいと思っている。
無制限の保険に入らないといけないなら、高額になってしまう。

○閉会

以上